

学校だより

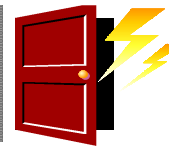
小川中学校

No. 28

平成27年3月5日

文責：校長 佐藤正則

お芽出とう！

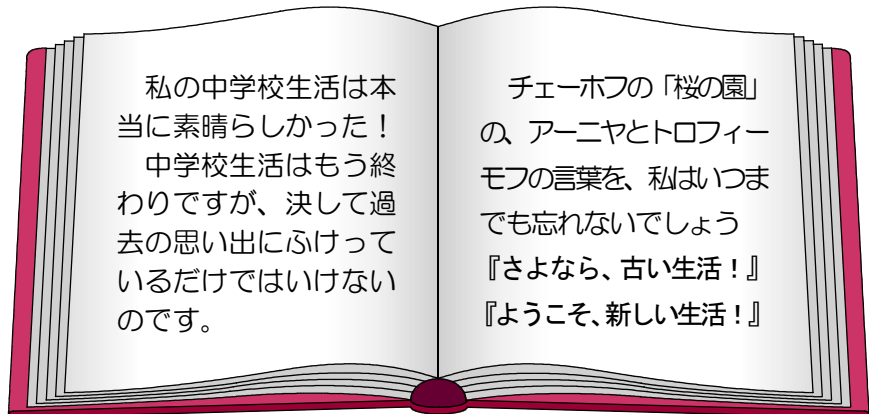


卒業式が目の前に迫りました。卒業式は中学校3年間の学業が終わり、その成果を認める場であり、その証として「卒業証書」を手渡します。

卒業式に関わる「おめでとう」とは「お芽出とう」とも書きます。卒業式はこれを節目に新しい生活へのスタートの時であり、新しい世界に羽ばたく日であり、生き方の変化と発展を求めているものだからです。

それぞれが「芽を出し」思う存分自己の天性、特性を發揮するチャンスであり、そういう願いが「おめでとう」の中にあるのです。

卒業式では、これまでの生活を振り返り、自分を見つめ、新しい世界へのスタートを期して欲しいものです。



私の中学校生活は本当に素晴らしかった！
中学校生活はもう終わりですが、決して過去の思い出にふけていっただけではいけないのです。

チェーホフの「桜の園」の、アーニヤとトロフィーモフの言葉を、私はいつまでも忘れないでしょう
『さよなら、古い生活！』
『ようこそ、新しい生活！』

卒業式予行実施！

3月13日(金)は卒業式

3月4日に、予行を行いました。

卒業式は、3年生にとって、最後の学校行事ですので、感動的なものにしたいと考えています。

特に、力を入れて指導しているのが、「返事、式歌、服装」の3つです。予行では、恥ずかしいのか、思うようにできない生徒もいましたが、当日は、成長を堂々と示そうと話しています。

また、在校生にも、感謝とともに「学校を引き継ぐ」という意思と態度を卒業生に示せるよう指導しています。

素晴らしい体験！

2月25日、いわきアリオスで東京交響楽団の演奏会があり、1、2年生が参加してきました。これは、FMいわきが、音楽を通じて市内の小中学生を勇気づけたいとの願いで行っている事業です。

市内から中学校は9校が招待されました。本校の座席は1階の前の部分という、いわゆるS席だったので、とても迫力ある演奏を聴くことができました。また、全員合唱や最前列ということで、団員に花束を渡す大役を務めるなど、とても貴重な経験を積んだ一日となりました。



上手く弾けたよ！

1年生は音楽で、和楽器の「箏」の勉強をしています。

西洋音楽とは全く違う音階や階名の勉強や基本的な奏法を学び、簡単な曲を弾けるように勉強しています。

学校には、箏が6面しかありませんので、3人ひとグループでの練習です。今日は、合奏でした。男女とも真剣に、とても息の合った演奏を披露してくれました。

ちょっと待って！決めましたか約束事！



3年生は、半数以上の生徒の進路が決まっています。これから受験する生徒は27人で、各学級の3分の1程度です。こうした中で聞こえてきた心配なことがあります。

合格ないし内定した生徒たちがスマートフォンや携帯電話を買ってもらっているということです。この時、購入にあたって使い方の約束事を話し合い、しっかりと決めていただけたでしょうか？

というのも、スマートフォンに夢中になり、夜遅くまでメール等を行い生活リズムをくずしてしまっている生徒が見られるからです。また、今は問題としては現れていませんが、LINE（ライン）などでのトラブルの心配もあります。顔が見えない分、面と向かっては決して言わないことを平気で書いたりして送ることによるトラブルや呼び出しによる被害が多いからです。

購入するかどうかは保護者の方の判断と責任です。お子さんが中学校生活を最後まで全力で仕上げられるように、これから受験を迎える生徒たちの緊張感をくずすことがないように、トラブルにあって苦しまないように、購入にあたっては、約束事を決め、守らせていただきたいのです。買ってあげたくなる保護者の方の気持ちも分かりますが、お子さんを守るためです。お願いします。

トラブルを乗り越えてたくましく！

中学時代の思春期は心身ともに大人となるための変化の時期です。個人差はありますが、3～5年ぐらいの期間は、自身の心身の変化に戸惑い、振り回され、時に苦しむことが起きてきます。「心の嵐の時代」です。そのため、些細なことでトラブルが起きたり、それまでの関係に変化が起きたりします。

しかし、こうしたことはすべて、良き大人になるための訓練です。様々なトラブルを通じて、自分自身への理解を深めたり、良好な人間関係の作り方を学んでいきます。身近でみている保護者の皆さんにとっては、お子さんがトラブルで悩むことなく生活していることの方がよいとは思いますが、思春期にトラブルらしいトラブルなく過ぎてしまうことは、「決していいことではない」と考えています。



特に、葛藤を通じて、この時期に学んでほしいことは、次の4点です。

- 1 自分の思いだけで判断行動するのではなく、相手の思いを考慮できるようにする。
- 2 ベったりしすぎたり、突き放したりせず、友だちとの適切な距離感を覚える。
- 3 自分自身への理解を深め、行動や生き方を考え、日々、目標を持って生活できる。
- 4 自分では変えられないもの（相手の気持ち、過去の出来事）に執着せず、自分で変えられるもの（自身の気持ちと行動、未来）に目を向けた生き方をする。

最近の子どもたちを見ると、トラブルが起きないようにと、当たり障りのない関係で生活する様子が強くなっています。もちろん、トラブルの中には、放っておくと「いじめ」に発展しかねないものもありますから、それを避けたいという心理からなのでしょう。積極的に起こすことは問題ですが、トラブルから決して目を背けたり、逃げたりせず、自分の力で解決する努力をしてほしいのです。

保護者の皆さんには、自分の過ぎてきた「心の嵐の時代」の経験を踏まえ、助言や励ましをしてほしいと思っています。また、気になることは、遠慮なく学校に連絡いただきたいと思います。